



FSC

www.fsc.org

100%

責任に管理された
森林産物を使用し
ています。

FSC C103704



浜松市

みんなで創る、元気な未来。

notebook

浜松市 農林水産ノート

平成 28 年 11 月号

・ 農林水産情報発信WG(ワーキンググループ)
がほぼ毎月配信します

・ ホームページやフェイスブックなど発信した情報
を中心にまとめます

— 今号の目次 —

特集『今さら聞けないんだけど…、FSCってなに？』

『グリーンレジリエンス連携・協力協定』締結式

“笑顔”つなぐ 浜松市ユニバーサル農業インタビュー」をスタートしました

新規就農者インタビュー「有機野菜農家・長谷川さん」

いよいよみかんの季節の到来です！

シンガポールメディアが浜松の農林水産業取材に訪れました

はままつ起業家カフェで峯野牧場・峯野忍さんが講演を行いました

『しずおか森林写真コンクール』で市内林業現場の写真が特選に選ばれました

【今号の特集】今さら聞けないんだけど…、FSC®ってなに？

【FSC 森林認証】は世界の森林を守る認証制度です！

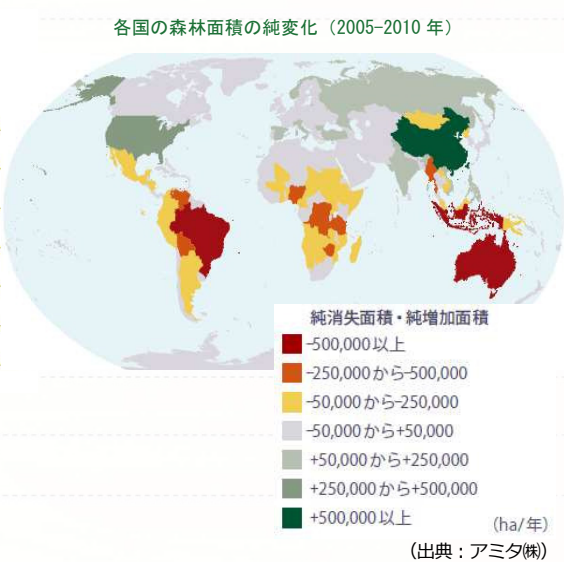
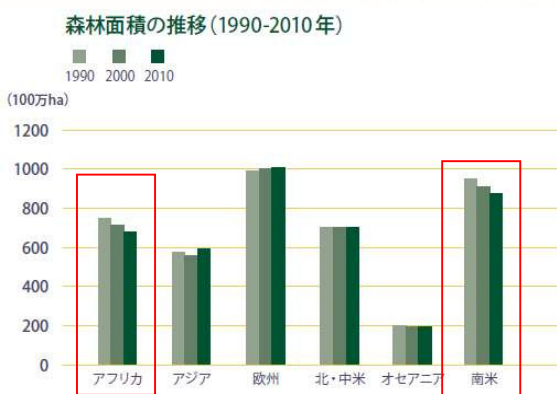
最近よく聞く「FSC」。浜松市は、全国でも先進的にこの認証制度に取り組み、市町村別の認証面積では全国トップ。木材需要が高まる中で、全国から注目を浴びています。

FSC 森林認証制度は、世界中で進む違法伐採から森林を守る制度です。環境保全に配慮し適切に管理された森林及び木材に対し、第三者機関が認証を行うことで、持続的な森林の利用を図る世界的な取組です。



世界の森林の現状

世界では最近 10 年間で毎年、北海道と九州をあわせたほどの面積（約 1,300 万 ha）の森林が減少しています。特にアフリカ・南米における熱帯雨林の激減が続いています。



違法伐採とは？

違法伐採とは、一般に、各国の法令に違反して行われる森林の伐採を指し、法令で定められた基準を守らない量や樹種を伐採したり、保護地域や伐採権がない森林を盗伐するなどの例があげられます。

国際的な木材需要の高まりを背景に、世界における違法伐採は相当量に上っています。違法伐採が多いとみられているのは、東南アジア、ロシア、アフリカ、ブラジルなどで、ロシアでは木材の20%、インドネシアでは木材の50%以上が違法伐採木材とされています。(林野庁 HP)

【発生の背景】

- ①法執行体制の弱体化
政治的・経済的な混乱で管理が弱まっている
- ②大きな利潤
低コストで生産された違法伐採木材で大きな利潤が見込まれる

【影響】

- ①森林減少 ②生物多様性の減少 …貴重種の減少、生態系の変化
- ③気候変動 …CO2 排出の20%は森林減少による
- ④適正な管理木材の流通の妨げ …不当に安い木材の流通



FSC 森林認証制度のしくみ

こうした世界での森林資源の減少を防ぐため、ドイツを本部として FSC 森林認証制度が生まれました。森林の管理や伐採が、環境や地域に配慮して行われているかどうかを、第三者機関が評価し認証を行います。そして、その森林から生産された木材や木材製品に、ロゴマークを付けて市場に流通させています。



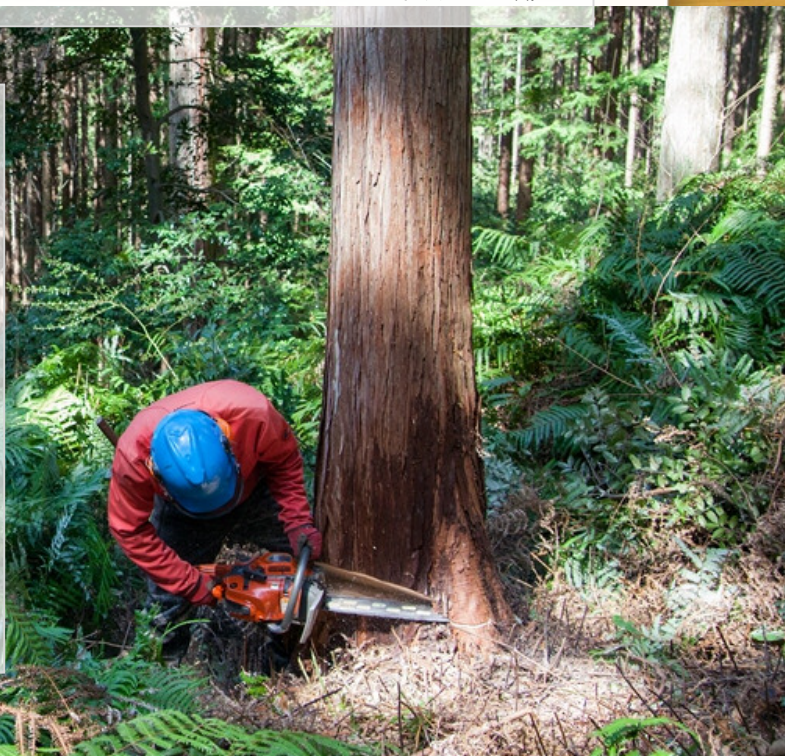
(出典：アミタ株)

環境を守る浜松の林業

浜松市では天竜材の更なるブランド化を図るため、平成 22 年 3 月浜松市天竜区及び北区引佐町地域の森林のうち 18,400ha が FSC 認証を取得しました。森林環境保全に配慮し、地域社会に利益にかなない、かつ経済的にも継続可能なかたちで管理された森林の認証であり、これまで受け継がれてきた伝統と技術が世界的にも証明されたことにもなります。

認証面積は年々拡大し現在は 43,553ha (H27 年度末) となりました。市町村別の認証面積では、全国 1 位を走り続けています。

持続可能な森林経営を次世代につないでいく。FSC は、美しい天竜美林が守られている証です。



『グリーンレジリエンス連携・協力協定』締結式



平成 28 年 10 月 31 日、浜松市役所において、「グリーンレジリエンス」の推進に関わる連携・協力協定の協定書締結式を行いました。

式には、三井住友海上保険㈱からは、執行役員神奈川静岡本部長の内内章生氏が出席し、浜松市長と協定を交わしました。

グリーンレジリエンスとは、自然資本を有効に活用して、防災・減災対策、いわゆる国土強靱化と地方創生につながるビジネスの創出を並行的に進めていく事業や活動を指します。

本協定は、浜松市域の約 7 割を占める森林資源を活用した産業振興を通じて、都市の強靱化と地方創生を実現することを目的としたもので、グリーンレジリエンスの推進を目的とした地方自治体と民間企業による連携協定は、市町村では全国初の事例になります。

【協定による連携事業】

- ・ 持続可能な森林管理（F S C）に関すること
 - ・ 都市の木造・木質化に関すること
 - ・ 林業・木材産業の振興に関すること
 - ・ 木質バイオマス発電の導入推進に関すること
 - ・ その他、自然資源を活用した都市の強靱化及び地方創生に関すること

《市長のコメント》

グリーンレジリエンスという言葉にはまだ馴染みがないが、今後非常に重要な役割を果たす取組である。浜松市が有する F S C 認証林を適正に管理し、土砂崩れ等の災害防止に努めるとともに、三井住友海上火災保険㈱のネットワークを最大限に活用して天竜材の販路拡大に繋げていきたい。本協定を通じて、今後は、国土強靱化や地方創生に向けて、相互に有益となるような事業に取り組んでいく。

「“笑顔” つなぐ 浜松市ユニバーサル農業インタビュー」を スタートしました



市内のユニバーサル農業に取り組む方々をご紹介します『笑顔“つなぐ” 浜松市ユニバーサル農業研究会インタビュー』を浜松市ホームページでスタートしました！

“ユニバーサル農業”という言葉、聞きなれない方も多いかと思いますが、ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示すように、誰もが参加できる農業という意味です。園芸作業を行うことによる生きがいづくりや高齢者・障がい者の社会参画などの効用を農作業の改善や農業に多様な担い手の育成などに活かしていこうという取り組みで、障がいのある方の農業参画への取り組みは現在全国的にさかんになっており、「農福連携」と表現されることも多いものです。

今回スタートしたこちらのインタビューシリーズは、こうした障がい者の農業参画に取り組む市内の農業者や福祉関係者で構成する「浜松市ユニバーサル農業研究会」のメンバーの取り組みをご紹介します。

第1回は、南区鶴見町でユニバーサル農園・京丸園を経営し、NPO しずおかユニバーサル農業園芸ネットワーク事務局長も務める鈴木厚志さんのインタビューです。

障がいをもった方を雇うようになったきっかけや、そこで生まれた京丸園での変化、そして気づくことができた経営のヒントなどを、詳しくご紹介しています。スマートフォンなどでも閲覧がしやすくなっておりますので、浜松市ホームページをぜひご覧ください。

なお、特設サイトでは、今後福祉、企業、医療など様々な立場でユニバーサル農業に取り組まれている方々をご紹介します。ぜひご注目ください。

検索は、 **ユニバーサル農業 鈴木厚志** 検索 

笑顔“つなぐ”
浜松市ユニバーサル農業研究会インタビュー
鈴木厚志
NPO しずおかユニバーサル農業園芸ネットワーク事務局長

新規就農者インタビュー「有機野菜農家・長谷川さん」



浜松市内で新たに就農された方取材した冊子『新規就農者インタビュー』から、ご紹介します。

今回のインタビューは北区三ヶ日町・三方原町で有機野菜を生産されている、広島県出身の長谷川乾さん、磐田市出身の長谷川実香さんご夫婦を取材させていただきました。

Q.「どんな農産物を作っていますか？」

A.「馬鈴薯などの芋類、ナスなどの果菜類、タマネギなどのねぎ類といった有機野菜を、少量多品目に栽培しています。」

Q.「就農したきっかけ（動機）を教えてください」

A.「以前は東京の大手 IT ベンチャー企業で 10 年以上勤めていました。勤めている期間のうち 2 年間、世界一周の放浪旅を経験したのですが、その中で世界の現実を目の当たりにし、できるだけ地球と調和した生活が必要だと思うようになりました。また、旅の後に出会い結婚した妻が化学物質過敏症だったこともあり、食べる物の安全性をより求めるようになりました。創業期から勤め愛社精神も非常に強かった自分ですが、こうした様々な環境や考え方の変化がきっかけとなって、農業の世界に入ることを決めました。」

Q.「農業の魅力ややりがいを感じる場所はどんなところですか？」

A.「自分達にとって、農業は地球と調和した生活の実践です。農業に興味のある方を募り、一緒になっていろいろな活動もしていますが、そういう仲間たちの協力を得ながら充実した生活を送れてい



ます。自分自身が心を込めてつくったものを直接お客さまに届け、その喜ぶ顔を見られることもやりがいになっています。特に野菜嫌いだった子どもが、自分の作った野菜だとおいしい！とたくさん食べてくれるという話を聞いたりすることもあり、すごく嬉しい瞬間です。また、夫婦で共に働いていられる毎日はずごく幸せなことです。

それから、組織・会社の中では人が人を評価することが常です。もちろんそれは普通のことであるのですが、農業の場合は自然が自分を評価する。うまくいけば、それは自然の循環に合っていたということであるし、逆にうまくいかなかったということは、合っていなかったということ。自分の場合は心から納得できます。それも農業の醍醐味だと感じています。」



Q. 「反対に、苦勞した又は苦勞しているところはどんなところですか？」

A. 「三ヶ日の元々企業の保養所だった建物を自分たちの住まいとして購入し、農に関する仲間が集って宿泊できるような環境にして生活しています。三ヶ日はみかんの大産地で果樹を作るには最適の土地ですが、野菜作りには土質が合わずはじめは苦勞しました。また、栽培した野菜のセットを消費者の方に直接販売していますが、例えば同じ夏野菜でも種類によって生育期間や採れるペースがばらばらなので、ご要望に応じた野菜を同時にそろえることが難しく、苦勞をしているところです。自分は異業種からのチャレンジであり、草取りやマルチ張りなど基本的な畑仕事の全てが慣れない作業でしたが、未知の世界に踏み込んでチャレンジしている毎日がドキドキワクワクしています。就農してまだまだ経験が浅く、これから先もっとたくさんの苦勞があると思いますが、目標に向かって技術を磨いていきたいと思っています。」

Q. 「これから先の夢は？」

A. 「今がまさに夢の実践中でもあるのですが、まずは目先の夢として、まったくの素人の自分たちが有機栽培農家として生計を立てていけるようになること。またその先の夢として、自分の経験をもとに新規就農にチャレンジする若者を応援すること、日本だけでなく世界をフィールドに農業の指導していけるようになることです。これからもうちに集まってくれる仲間たちとともに、自分たちが持つ希望に向かっていき、その過程も楽しんでいきたいと思っています。」

(取材当日は、アメリカ人の John さんがお手伝いに来られていました)



いよいよみかんの季節の到来です！



やっと気温も下がり、いよいよみかんの季節の到来です。スーパーマーケットなどでもみかんが並ぶようになりましたね。ご存じのとおり、浜松市は全国有数のみかんの産地で、10月から3月頃まで浜松のおいしいみかんが全国に出荷されていきます。

さて、今回はみかんに関連した話題として、農産物の認証制度について紹介させていただきます。

農産物には「食の安全」や「環境保全」を守る認証制度として、“GAP”(Good Agricultural Practice : 良い農業のやり方)があります。この基準は、国内でも都道府県や農協の部会など、策定主体により100を超えるGAPがありますが、その中でも、農林水産省が導入を推奨するものの1つに、特定非営利法人日本GPA協会によるJ-GAP (Japan-GAP)があります。J-GAPでは農薬の管理、肥料の管理、水の管理、土の管理など120以上の項目が定められています。

また、海外に目を向けてみると、ドイツのケルンにある民間の非営利組織による認証であるG-GAP (Global-GAP) が世界的に最も信頼のおける国際認証の1つに挙げられており、世界80ヶ国、10万件を超える認証件数となっています。オリンピックにおいて



も、選手に提供する食材に GAP 等の国際認証の取得を求めるかが議論されているのが現状です。

これら J-GAP や G-GAP といった認証制度を取得している農場・圃場が、市内にはいくつかありますが、その両方を取得しているのが、丸浜柑橘農業協同組合連合会に属する都田・浜北地区の生産者さんです。

ここでは丸浜農業協同組合連合会・G-GAP 部会を組織し、厳しい国際基準に沿った、安全で、環境に配慮したみかんの栽培が行われています。



10 月からは丸浜柑橘農業協同組合でも出荷作業がはじまり、「早生みかん」「片山みかん」「翡翠（ヒスイ）みかん」「青島みかん」などが全国各地へ出荷されます。

生産者の目の行き届いた「安全」「安心」「おいしい」みかんを、たくさんの方に味わっていただけるといいですね。



シンガポールメディアが浜松の農林水産業取材に訪れました



シンガポールメディアが浜松の農林水産業取材に訪れました！

浜松市では、海外からの観光やビジネス旅行者に向け、観光名所や名物の情報を発信していただく海外メディアの招へい事業を行っています。また、同時に市内の農水産物や加工食品等にもスポットをあていただき、魅力的な発信をしていただくことで海外販路拡大の機会につなげようと、農観連携（農業と観光の連携）の事業を進めています。

今回、こうした取り組みを受けてシンガポールの食に関するメディアが浜松市を訪れました。

一行は、水産物全般を扱う西区雄踏町・㈱海老仙や舞阪漁港、農業分野では、南区鶴見町・京丸園㈱の芽ねぎ、東区豊西町・美香園のサラダセルリーの圃場、はまつフルーツパークやうなぎいもカフェなど市内の様々な現場の取材にまわりました。それぞれの現場



では、元気よく跳ねる新鮮な水産物の数々や、清潔に管理された水耕栽培の圃場をご覧いただいたほか、旬のフルーツやユニークな加工品を味わっていただくなど、シンガポールでは得られない体験をぎっしりと映像におさめていただきました。

浜松の誇るおいしくて豊富な農林水産物の魅力が、映像を通して海外のたくさんの方に知っていただけるといいですね。



はままつ起業家カフェで峯野牧場・峯野忍さんが講演を行いました



みなさま「はままつ起業家カフェ」はご存知でしょうか？
起業を目指す人たちを応援する「はままつ起業家カフェ」は、
起業に必要な情報の提供や準備の支援をする浜松市の事業です。
ここではすでに経営を行っている「先輩」を講師にお呼びし定
期的にセミナーを開催しています。今回は、肉牛の飼育をしな
がら直売所でブランド・峯野牛を自ら販売している峯野忍さん
が講師となり、これまでの経験から経営することの苦労や醍醐
味を語りました。

実は峯野さんは、「起業」ではなく、ご両親から峯野牧場を受
け継ぎましたが、継いだときには牧場の経営は非常に不安定だ
ったそうです。

ゼロからではなく、マイナスからのスタート。それでも、飼
育技術の向上やマーケティングなど様々な取組みと、お客さん
が食べたい峯野牛を作るという強い思いが実を結び、現在はブ
ランド牛として様々な認証を得るまでになりました。「自分にし
かできないものを作る」「お客さんのニーズに応える」という強
い気持ちが、今も経営を支えているそうです。

峯野さんは、今年度、浜松市が実施している農業経営塾の塾
生の一人でもあります。

これからは、農業にも「経営」が必要になる時代。峯野さん
も、さらなる事業の充実を目指し、この経営塾で学んでいます。
資源豊かな浜松の農林水産業が、これからももっともっと盛ん
になるといいですね。



『第33回しずおか森林写真コンクール』において 天竜区春野町の林業現場の写真が特選に選ばれました



特選 守り人の技 (天竜区春野町)

静岡県内の「森林の景観」「林業・木材産業で働く姿」「森林体験やレクリエーションの様子」などをテーマに、森林や林業の素晴らしさ、大切さの啓発を目的に行われている『しずおか森林写真コンクール』第33回の特選に、天竜区春野町での伐採作業の様子を撮影した写真が選ばれました。

大きく育った太い天竜杉を、チェーンソーで力強く伐採する様子が撮影されています。ベテラン林業家さんの匠の技を通して、天竜の森や天竜材の魅力がたくさんの人に伝わるといいですね。